



若竹だより



【巻頭言】

カッパ池

—池の中にも世界がある—

園長 野田大燈

海拔 400 位の地にある若竹学園は 2 月の半ばになっても積雪がある。

春の訪れはまだまだ先に思える或る日、ふっとカッパ池を覗きたくなった。

先日までは園生が厚く張った氷の上に乗ったり石で穴を開けたりしていたが、氷が薄くなってからは立ち寄ってない様子で、何となく今年の今頃にオタマジャクシの卵が産み落とされていたように思えたからだ。

そっとカッパ池に近づいて覗いて見ると、池のあちこちに大きなブドウの房のような卵が浮かんでいた。

「ああ、人間共は寒い寒いと籠っている内に、動物たちはちゃんと自然のリズムを感知して自分の出番を心得ているのだ」と感じた。

自然界に生息している動物の中で、自然に最も鈍感であるのは人間かもしれない。

その鈍感な人間が智慧の故に地球を改造し征服したかのように振る舞い、わがまま勝手に自然の摂理を踏みにじろうとしているように思えてならない。

天に唾すれば必ずその唾は何処かに落ちてくるのだが、そのことすら理解できていない。

わがまま勝手に地球をいじくり廻したために南極や北極の氷が解け出して水没する地域ができたり、水質汚染で飲料水に事欠くよう

になったりして来ている。

先日はロシア上空で直径約 17 ㍎重量 1 万トン程の隕石が落下爆発して約 1000 人が負傷したとか。被害の軽るからんことを祈るが、過ぐる 2 万年程以前のマンモスが地球を闊歩していた頃に直径約 10 km もある大隕石が激突して地球が氷河期となる原因の 1 つになったとも言われている。

改めて人間は自然の摂理に対して「畏れ」の思いを失ってはならないと感じた。

池の中を覗き込んで眺めていると、オタマジャクシの卵が浮いているカッパ池の底には未知の世界があるように思えてならない。

春先になるとオタマジャクシの卵が孵化し、池全面を覆うように蠢いていた子カエル達が数夜にして姿を消してしまうのには背筋が寒くなるほどの畏れを感じてしまう。

オタマジャクシが孵化する頃になると、園生たちが代わる代わるにやってきて池の様子を伺い、中には持つ来たった容器に孵化したカエルを掬って学園に持ち帰って飼育する者もいる。

子カエルが去ってしまうと、園生たちはザリガニやエビを取りに訪れる。

園生の中には何時までもじっと池の底を窺っている者もいる。

その姿がほほ笑ましく、彼の横に座って池の底を眺めてみた。

人間界には存在しない穏やかで神秘的な世界が広がっていて、様々な生物たちが秩序正しく生活しているのでしょう。 —了—

節分



2月3日、節分で恵方巻きを食べて豆まきをしました。

今年の恵方は南南東。食堂から玄関を見るようなイメージで、そちらを向いて黙々と食べました。

お昼から、季節の変わり目の邪気を払うために豆まきをしました。



今年も新聞紙を丸め、実習生や園生の有志が扮した鬼にめがけて投げました。その後、厄除けと身体が丈夫になるよう、自分の年の数の一つ多くずつ、豆を食べました。

今年一年も、元気よく過ごせそうです。

冬の遊び



今冬の五色台には、3月までに3回、雪が積もりました。



雪が積もるとわらわらと子どもが集まって雪合戦が始まります。中学生が作る雪玉は固く、腕力もあるので当たると非常に痛く感じます。写真を撮ろうとしても、雪玉を避けるのに必死で、上手く撮らせてもらえません。

ソリ部隊も現れて、坂道を駆け上がります。坂道から転がり落ちないかハラハラしますが、子ども達はへっ



ちゃらで、歓声を上げながら滑り降ります。子ども達の中では、学園周辺の坂道を滑り降りた事のないところはないのかもしれませんが。



3階テラスには屋根が無く、土汚れの無い綺麗な雪が積もります。女の子たちが作っていたのは、上手に作ったクマのプーさんの形をした雪だるまで、しばらく3階テラスに立っていました。

職員は大慌てする積雪ですが、やはり子どもたちにとってはうれしいもののようです。

バレンタインデー

2月14日、富士産業さん主催でバレンタイン・チョコ作りをしました。

もちろん、参加者は女の子たちです。わいわい言いながら、楽しく作りました。



ちょっとしたアクシデントはありましたが、無事に完成し、可愛くラッピングしました。

そのチョコは、夕食の際に渡して、みんなでおいしく食べました。

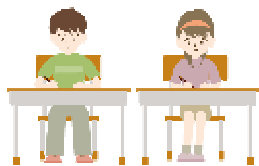
富士産業さん、ありがとうございました。

若竹学級たより

あと残すところ学校生活もあと 1 ヶ月をきりました。振り返るとたくさんの思い出が浮かび上がってきます。残り 1 ヶ月弱、さらに深い思い出ができるように 1 日 1 日を大切に過ごしていきたいでしょう。

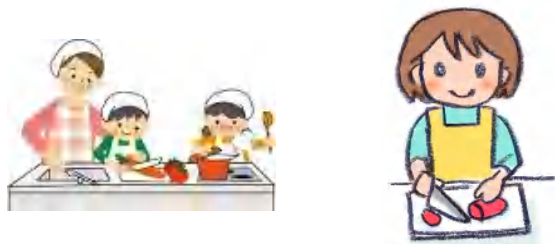
診断テスト

中学生合同で診断テストがありました。1 年生にとっては初めての診断テストです。4 月の始めから 2 月の頭までの授業で行なった範囲全てであるため非常に広範囲であり、難しい問題でした。しかし生徒たちは、50 分目一杯問題と向かい合い、頑張ることができました。また一つ成長したのではないのでしょうか。



調理実習

2 月 21 日に 1 年生で調理実習を行いました。ピザトーストとベビーカステラを作りました。事前に調理方法や食材などをクラスで話し合い、準備をしっかりとしてから調理に入りました。調理中は、各自がしっかりと役割をこなし、仕事をこなすことができました。料理自体もとても上手にでき、全員でおいしくいただきました。次の調理実習の時は更に上手にできたらいいですね。



先生方からのお言葉

藤本 剛志先生

今年 1 年皆さんと一緒に勉強させていただきありがとうございました。ウォークラリーはいつかフルで走りたいなと思っています。

松本 努先生

1 年間ありがとうございました。みなさんといろいろな話をしたり、運動したりして私も良い思い出ができました。4 月からそれぞれの道を自分のペースで歩いてください。

藤澤 裕一郎先生

本当にあつという間の 1 年間でした。みなさんに出会えてたくさんの思い出を作ることができまし。これからも先生のモットーである【明るく・楽しく・元気よく】で、自分の道を突き進んでください。

鞆井 孝先生

この 1 年間、暖かいご支援・ご協力をいただきありがとうございました。これから子どもたちが良い出会いに恵まれ、励まし合い、高め合いながら、直面する困難に立ち向かっていくことを願っています。

三宅 明日賀先生

若竹にいとると 1 年間でとても早く感じます。楽しいことばかりではなく、時には泣いたり怒ったり、今では全て私のいい思い出です。1 年間で感じたこと、成長できたことを忘れず、次の新しい学年でも、自分らしさを持ち続けて進んでほしいと思います。



調理実習

2 月 1 2 日、下笠居コミュニティセンターをお借りして、調理実習をしました。今年度学園を卒園する男児の自立訓練の一つです。



前々からメニューを話し合っ
て決めておき、当日は食材の
買い物から始まりました。もち
ろん、食材の新鮮さ、安さを
吟味しながら慎重に選びます。

買い物が終われば、コミュニティセンターにて調理開始です。調理に時間を要するものから直前にした方がよいものなど、手順を考えて調理を進めました。ジャガイモの芽は皮を厚めに剥きしっかり取っていました。付け合せのニンジンのグラッセも面取りをしました。



全ての工程を任せ、職員はお手本を見せるだけでしたが、順調に進み、お昼ごろには完成しました。



メニューはご飯、鶏肉のチーズ焼きとニンジンのグラッセ、アサリの味噌汁、ポテトサラダ、ニンジンの炒め物、大馬の玉子焼きでした。職員直伝の味付けで、おいしい、と大満足していました。

卒園までにもう一度、調理実習が出来たらと思います。

日常のヒトコマ

カッパ池の凍り具合を確かめていました。
(この後、危険なのでとめました:)



~御寄附ありがとうございました~

- 日光商事様 お菓子
- 地方紙正月連合企画様 書籍
- 株式会社たまや様 お菓子、文房具

2月行事

- 3 日 節分
- 1 1 日 図書館
- 2 1 日 買物学習
- 2 4 日 図書館
- 26-27 日 お別れ旅行〔大阪・神戸〕

編集後記 積雪で喜ぶのは子どもばかり、大人は山に上がれない!?とオロオロしていました。今年もお別れ旅行に行ってきました。たのしかった模様は、次号に持ち越したいと思います。

第 229 号発行

〒761-8004 香川県高松市中山町 1501-192
 T E L 087-882-1000 F A X 087-882-1160
 ホームページ <http://netwave.or.jp/~wakatake/>
 Eメール wakatake@mail.netwave.or.jp
 編集兼発行者 若竹学園 編集委員
 発行責任者 野田 大燈